(トップページ：http://mylibrary.maeda1.jp/)
(五大石油会社の業績比較：http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html)
(ブログ「石油と中東」：https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943)
マイライブラリー：0570

(注)本稿は 2022 年 11 月 7 日から 30 日まで 15 回に分けて「ブログ・石油と中東」に掲載したレポートをまとめたものです。

2022.12.6

前田　高行

巨額の利益、Exxon197 億ドル、アラムコ 424 億ドル：2022 年 7-9 月期石油企業決算速報 (1)

スーパーメジャーと呼ばれる五大国際石油企業(ExxonMobil、Shell、bp、TotalEnergies、Chevron：International Oil Companies、以下 IOCs)及びサウジアラビア国営石油会社 Saudi Arabian Oil Company(以下アラムコ)の７－９月四半期期決算が相次いで発表された。ここでは売上高、利益、売上高利益率、設備投資、キャッシュフロー及び石油・天然ガス生産量について各社の業績を横並びで比較するとともに過去 2 年間の各社四半期決算の推移を検証する。

なお過去の四半期業績及び2010年から2021年までの通年の業績比較は下記レポートを参照されたい。

http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html
http://mylibrary.maeda1.jp/oil.html

目次　　頁

I. 各社の業績概要
1. ExxonMobil　2
2. Shell　2
3. bp　3
4. TotalEnergies　3
5. Chevron　4
6. アラムコ　4
II. 5社とアラムコの業績比較
1. 純利益　5
2. 売上高　5
3. 売上高利益率　6
4. キャッシュフロー　6
5. 設備投資　8
6. 石油及び天然ガス生産量　9
III. 過去2年間の四半期業績推移　10

I. 各社の業績概要

末尾表 1-D-4-22a(売上、損益)、1-D-4-22b(キャッシュフロー、設備投資)及び 1-D-4-22c(原油・天然ガス生産量)参照。

(IOCs の中では売上トップ、他を圧する生産量誇る ExxonMobil！)

1. ExxonMobil

プレスリリース:

https://corporate.exxonmobil.com/news/newsroom/news-releases/2022/1028_exxonmobil-announces-third-quarter-2022-results

(1)売上・利益・利益率

ExxonMobil の 2022 年 7-9 月期は売上高 1,121 億ドル、利益 197 億ドルで売上高利益率は 17.5%であった。前期(4-6 月期)との比較では、売上高は 3.1%減、利益は 10.1%増であり、また前年同期(2021 年 7-9 月期)比では売上高は 1.5 倍、利益は 3 倍である。

因みに 7-9 月期の Brent 原油平均価格は1バレル 106 ドルであり、前期(4-6 月)の 114 ドルから 7.4%下落しており、売上高の減少幅を上回っている。

(2)キャッシュフロー及び設備投資

今期の営業キャッシュフローは 244 億ドルであった。投資キャッシュフローは不明であるが、フリーキャッシュフローは 220 億ドルであった。また財務キャッシュフローは+60 億ドルであり、この結果、6 月末のキャッシュフロー残高は 305 億ドルで期初から大幅に増加している。

ExxonMobilの 7-9 月期設備投資は 57 億ドルであった。

(3)原油・天然ガス生産量

ExxonMobilの 7-9 月期原油・天然ガスの生産量は、日量平均で原油 240 万B／D、天然ガス 80 億立法フィート(cfd)であった。天然ガスを原油に換算した原油・天然ガス合計生産量は 372 万B／Dである。

(利益は落ちたがキャッシュフロー残高は潤沢な Shell！)

2. Shell

プレスリリース:

https://www.shell.com/investors/results-and-reporting/quarterly-results/2022/q3-2022.html

(1)売上・利益・利益率

Shell の 2022 年 7-9 月期は売上高 957 億ドル、利益 67 億ドルで売上高利益率は 7.0%であった。前期(4-6 月期)との比較では、売上高、利益ともに 4.3%、及び 62.6%の減少であった。前年同期(2021 年 7-9 月期)比では売上高は 1.6 倍であった。また利益は前年同期の▲4億ドルの欠損から今期はプラスに転じている。

売上高、利益ともに前年同期比では増加、前期比では減少しているが、その主要因は他社と同様

エネルギー価格の上昇と需要回復によるものである。

(2)キャッシュフロー及び設備投資

今期の営業キャッシュフローは 125 億ドル、投資キャッシュフローは▲50 億ドルであり、フリーキャッシュフローは 75 億ドルであった。また財務キャッシュフローは▲97 億ドルであった。この結果、9 月末のキャッシュフロー残高は前期より若干減少し 360 億ドルとなったが、IOCs5社の中では最も高い水準にある。

Shell の 7-9 月期設備投資は 53 億ドルであった。

(3)原油・天然ガス生産量

Shell の 7-9 月期原油・天然ガスの生産量は、日量平均で原油 127 万B／D、天然ガス 30 億立法フィート(cfd)であった。天然ガスを原油に換算した原油・天然ガス合計生産量は 179 万B／Dである。

(脆弱な体質、売上大幅減少、唯一赤字のbp！)

3. bp

プレスリリース:

https://www.bp.com/en/global/corporate/news-and-insights/press-releases/third-quarter-2022-results.html

(1)売上・利益・利益率

bp の 2022 年 7-9 月期は売上高 578 億ドルであった。損益は▲22 億ドルの赤字で売上高利益率は▲3.7%となっている。前期は 93 億ドルの黒字であったが、今期は一転して赤字に転落した。本稿で比較した 6 社の中では唯一赤字であり、後述する通り同社は前年同期及び今年 1-3 月期と 1 年間に 3 回の赤字決算である。他社が石油価格の上昇と需要回復で大きな利益を確保している中で、同社の不振は際立っている。

(2)キャッシュフロー及び設備投資

今期の営業キャッシュフローは 83 億ドル、投資キャッシュフローは▲26 億ドルであり、また財務キャッシュフローは▲92 億ドルであった。この結果、9 月末のキャッシュフロー残高は 293 億ドルとなっている。

bp の 7-9 月期設備投資は 32 億ドルであった。

(3)原油・天然ガス生産量

bp の 7-9 月期原油・天然ガスの生産量は、日量平均で原油 96 万B／D、天然ガス 21 億立法フィート(cfd)であった。天然ガスを原油に換算した原油・天然ガス合計生産量は 132 万B／Dである。bp の原油・天然ガスの生産量は他社に比べてかなり低いのが特徴である。(詳細は II 章で詳述)

(安定したキャッシュフローの TotalEnergies！)

4. TotalEnergies

プレスリリース:
https://totalenergies.com/media/news/press-releases/totalenergies-third-quarter-2022-results
(1)売上・利益・利益率
TotalEnergies の 2022 年 7-9 月期は売上高 690 億ドル、利益 66 億ドルで売上高利益率は 9.6%であった。前期(4-6 月期)と比較すると、売上高は▲7.7%減、利益は 16.4%増であり、また前年同期(2021 年 7-9 月期)比では売上高 26%増、利益も 43%増となっている。

(2)キャッシュフロー及び設備投資
今期の営業キャッシュフローは 178 億ドル、投資キャッシュフローは▲41 億ドルであり、財務キャッシュフローは▲91 億ドルであった。期末残高は期初より 31 億ドル増加し 359 億ドルとなっている。
TotalEnergies の 7-9 月期設備投資は 47 億ドルであった。

(3)原油・天然ガス生産量
TotalEnergies の 7-9 月期原油・天然ガスの生産量は、日量平均で原油 149 万B／D、天然ガス 64 億立法フィート(cfd)であった。天然ガスを原油に換算した原油・天然ガス合計生産量は 267 万B／Dである。

(売上高利益率二桁を続ける Chevron！)
5. Chevron
プレスリリース:
https://www.chevron.com/newsroom/2022/q4/chevron-announces-3q-2022-results
(1)売上・利益・利益率
Chevron の 2022 年 7-9 月期は売上高 635 億ドル、利益 112 億ドルで売上高利益率は 18%であった。前期(4-6 月期)比では、売上、利益とも▲3%減であり、また前年同期(2021 年 7-9 月期)比では売上高は 1.5 倍、利益は 1.8 倍である。

(2)キャッシュフロー及び設備投資
今期の営業キャッシュフローは 153 億ドル、投資キャッシュフローは▲28 億ドルであり、フリーキャッシュフローは 123 億ドルであった。また財務キャッシュフローは▲90 億ドルであった。なお同社決算資料では期末キャッシュフロー残高は示されていない。
Chevron の 7-9 月期設備投資は 31 億ドルであった。

(3)原油・天然ガス生産量
Chevron の 7-9 月期原油・天然ガスの生産量は、日量平均で原油 171 万B／D、天然ガス 79 億立法フィート(cfd)であった。天然ガスを原油に換算した原油・天然ガス合計生産量は 303 万B／Dである。

(IOCs5社の合計利益を上回る圧倒的な収益力を誇るアラムコ！)
6. アラムコ

プレスリリース:
https://www.aramco.com/en/news-media/news/2022/aramco-announces-third-quarter-2022-results

(1)売上・利益・利益率

アラムコの 2022 年 7-9 月期は売上高 1,637 億ドル、利益 424 億ドルで売上高利益率は 26%であった。前期(4-6 月期)比では、売上高は▲5.3%減、利益も▲12.4%減であり、また前年同期(2021 年 7-9 月期)比では売上高は 1.5 倍、利益は 1.4 倍である。

(2)キャッシュフロー及び設備投資

今期の営業キャッシュフローは 540 億ドル、投資キャッシュフローは▲287 ドルであり、フリーキャッシュフローは 450 億ドルであった。また財務キャッシュフローは▲216 億ドルで、期末キャッシュフロー残高は期初から 37 億ドル上積みされ 733 億ドルであった。

またアラムコの 7-9 月期設備投資は 90 億ドルであった。

(3)原油・天然ガス生産量

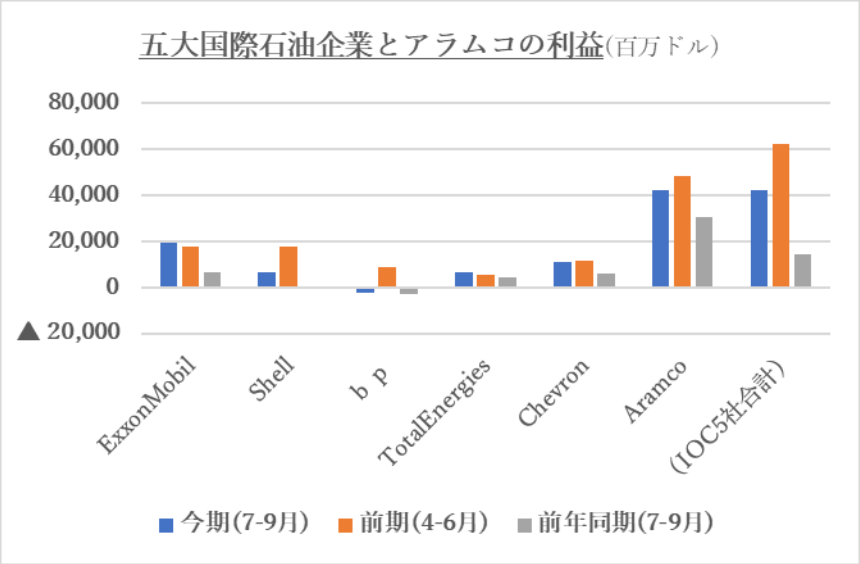
同社の決算資料では原油とガスそれぞれの生産量は記載されていないが、Interim Report によれば原油・天然ガスの合計生産量は 1,440 万B／Dである。

II. IOCs五社とアラムコの業績比較

ここでは IOCs 五社とサウジアラムコの当期利益、売上高、売上高利益率、キャッシュ・フロー及び設備投資を比較する。

(IOC5 社の利益合計を上回るアラムコ 1 社の利益！)

1. 純利益[1]



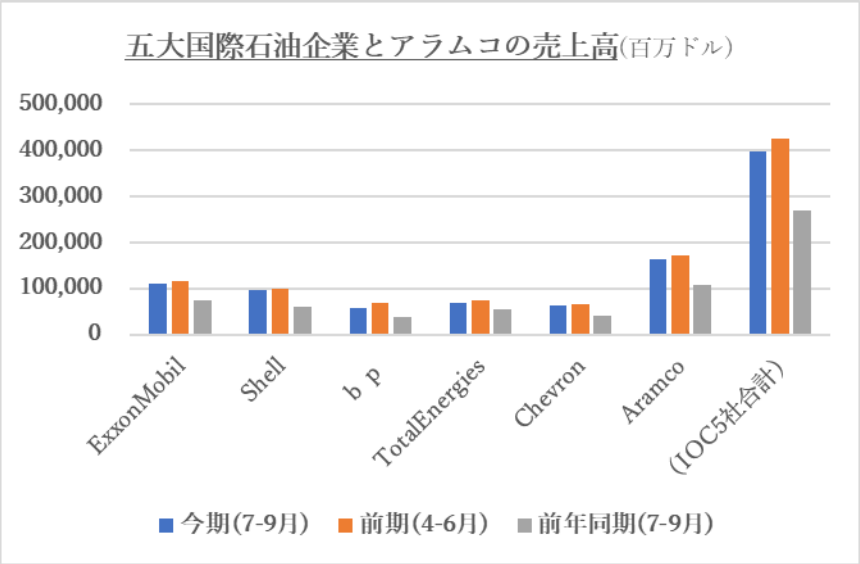
IOCs5 社の 7-9 月期は前期(4-6 月期)に続き原油が高値に推移した結果、利益は bp を除き高い水準を維持した。IOCs5 社の中で利益が最も多かったのは ExxonMobil の 197 億ドルであり、chevron が 112 億ドルで続いている。Shell 及び TotalEnergies は 66～67 億ドルで並んでいる。これに対し bp は 5 社の中で唯一▲22 億ドルの損失を計上している。後述するように同社は過去 2 年の四半期決算でも赤字が度重なっており、収益力で同業他社に大きく見劣りしている。

アラムコの 7-9 月期損益は 424 億ドルの大幅な黒字であり、IOCs5 社の利益合計額 421 億ドル

を上回る圧倒的な収益力を誇っている。

（原油高値推移で売上堅調！）

2. 当期売上高[2]

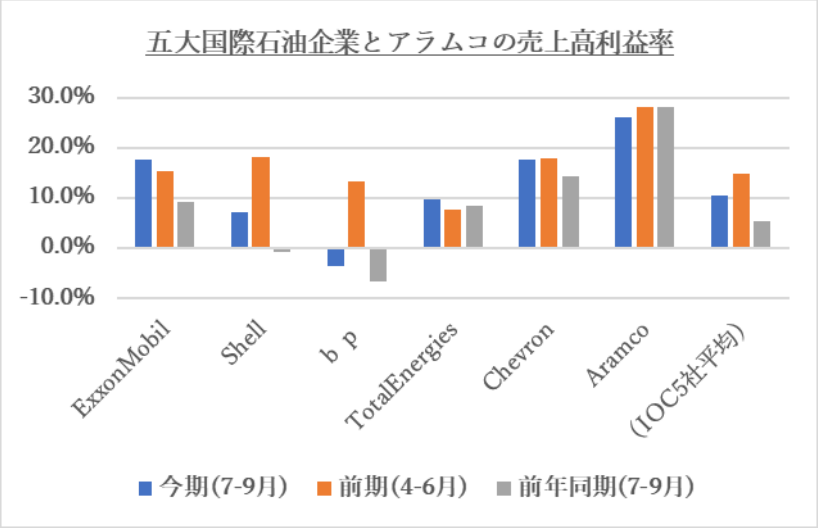


2022 年 7-9 月期の各社売上高は前期に引き続き好調であった。IOC5 社の中で最高の売上高を示したのは ExxonMobil の 1, 121 億ドルであり、唯一1千億ドルを超えている。ExxonMobil に次いで Shell が 957 億ドルで、TotalEnergies（690 億ドル）、chevron（635 億ドル）が並んでいる。bp の売上高は 578 億ドルで ExxonMobil の2分の1にとどまっている。

これに対しアラムコの売上高は 1,637 億ドルであった。IOCs5 社の合計売上高は 3, 982 億ドルでアラムコ1社の売上の 2.4 倍に達する。因みに、ExxonMobil の売上高を 100 とした場合、Shell は 85、TotalEnergies 62、chevron 57, bp 52 であり、アラムコの売上高は ExxonMobil の 1.5 倍である。

（アラムコの利益率は 26%、IOCs5 社トップは chevron の 17.7%！）

3. 当期売上高利益率

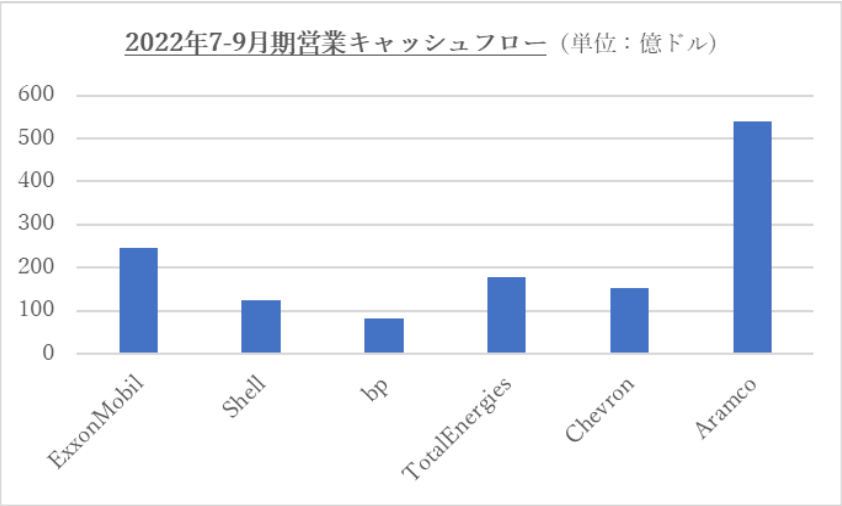


IOCs５社の今期売上高利益率は chevron が 17.7%と最も高く、続いて ExxonMobil 17.5%で二桁の利益率をあげたのはこの 2 社だけであり、bp は IOCs5 社の中で唯一▲3.7%であった。

4. キャッシュフロー[3]

（アラムコの営業 C/F は ExxonMobil の 2 倍、bpは ExxonMobil の 3 分の１！）

（1）営業キャッシュフロー(以下 C/F)[4]

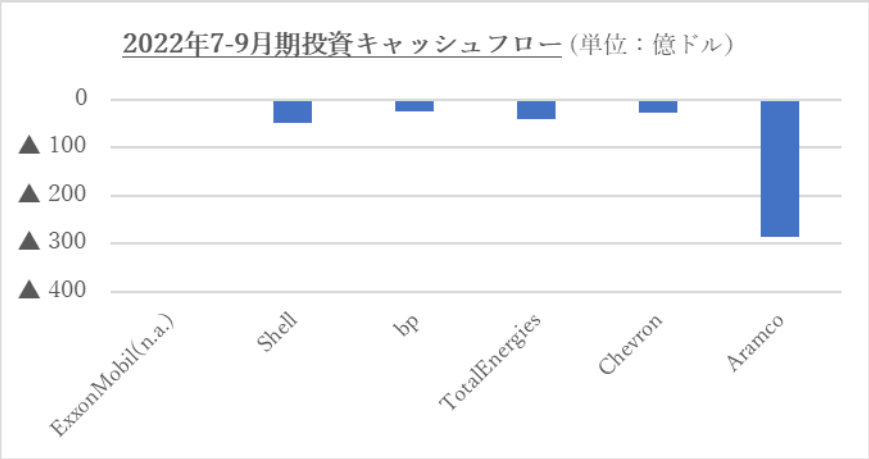


IOCs5 社の今期営業 C/F は ExxonMobil が最も多い 244 億ドルで、これに次ぐのは TotalEnergies の 178 億ドル、chevron 153 億ドル、Shell 125 億ドルであり、bp は最も少ない 83 億ドルである。これに対して Aramco の営業 C/F は 540 億ドルである。ExxonMobil を 100 とした場合、アラムコ 221、TotalEnergies 73、chevron 63, Shell 51, bp 34 である。

（投資に積極的なアラムコ、消極的な IOCs！）

（2）投資 C/F[5]

（注）ExxonMobil は 7－9 月期の投資 C/F を開示していない。

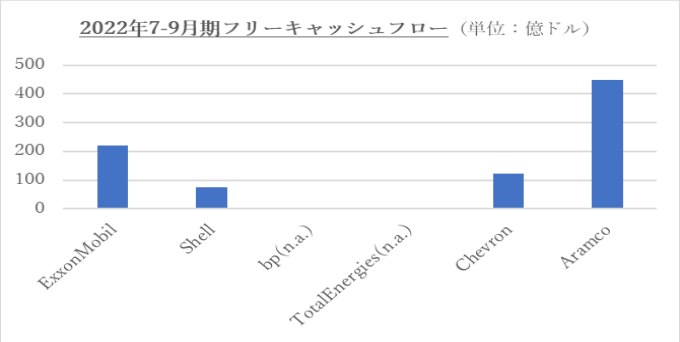


投資 C/F によるキャッシュの流出はアラムコが最も多く▲287 億ドルである。IOCs4 社ではShellが最も多いが（▲50 億ドル）、アラムコの 5 分の 1 以下にとどまっている。Total Energiesは▲41 億ドルだが、Chevron 及び bp はそれぞれ▲28 億ドル、▲26 億ドルでありIOCsは投資に消極的である。

（豊かなフリーC/F を誇る ExxonMobil！）

（3）フリーC/F[6]

（注）bp 及び TotalEnergies は 7－9 月期のフリーC/F を開示していない。



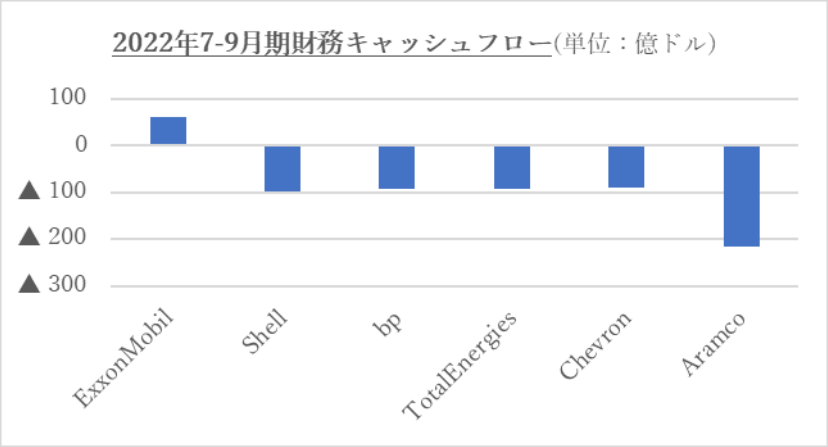
フリーキャッシュフローとは、会社が事業活動で稼いだお金のうち、自由（フリー）に使える現金（キャッシュ）がどれだけあるかを示すものである。

フリーC／Fが最も多いのはアラムコの 450 億ドルである。ExxonMobil が 220 億ドルでこれに続いており、Chevronと Shell

はそれぞれ 123 億ドル及び 75 億ドルであった。アラムコのフリーC/F は ExxonMobil の 2 倍、Shell の 6 倍に達する。

(返済が新規借り入れを上回る ExxonMobil！)

(4)財務 C/F[7]

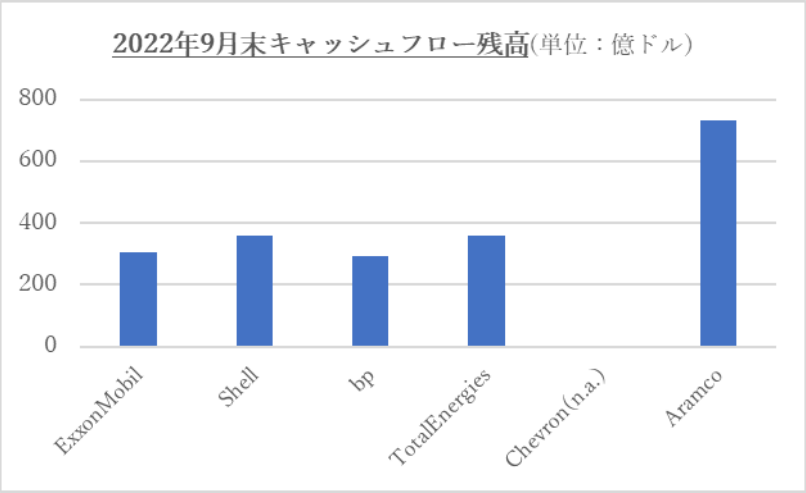


財務 C/F の収支は ExxonMobilが 6 社の中で唯一 60 億ドルのプラス勘定である。これは 7ー9 月中の返済が新規借り入れを上回ったことを示しており、財務状況が改善している。同社を除く IOCs4 社はいずれも▲90 億ドル台の C/F である。これに対してアラムコの財務 C/F は▲216 億ドルと IOCs各社に比べ際立って高い水準である。

(300 億ドル前後で肩を並べる IOCs各社、アラムコは 700 億ドル超！)

(5)C/F 期末残高[8]

(注)chevron は 7ー9 月期の C/F アラムコ残高を開示していない。



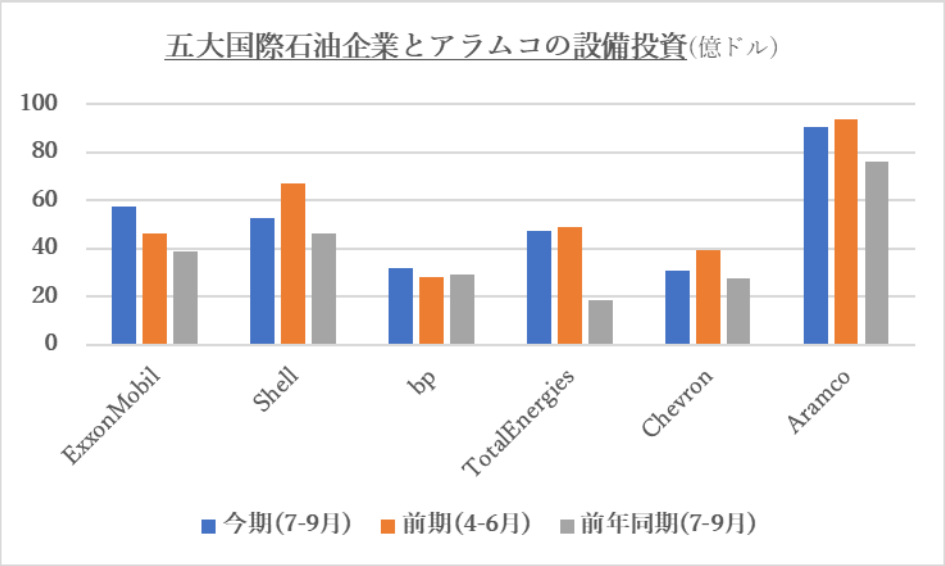
9 月末キャッシュフロー残高を比較すると、残高が最も多いのはアラムコの 733 億ドルである。Shell及びTotalEnergies の残高は 360 億ドルで並んでおり、ExxonMobil は 305 億ドル、bp の C/F 残高は 293 億ドルであった。

(アラムコの投資は IOCs の 2～3 倍！)

5. 設備投資[9]

IOCs5社の 7-9 月期設備投資は、ExxonMobil が 57 億ドルで最も多く、これに次ぐのが Shell(53 億ドル)、TotalEnergies (47 億ドル)である。bp 及び chevron は 30 億ドル強にとどまっている。前年同期に比べるといずれも増加しており、また前期(4-6 月期)比ではExxonMobil及び bp が増加、TotalEnergies は横ばい、Shell 及び chevron は減少している。

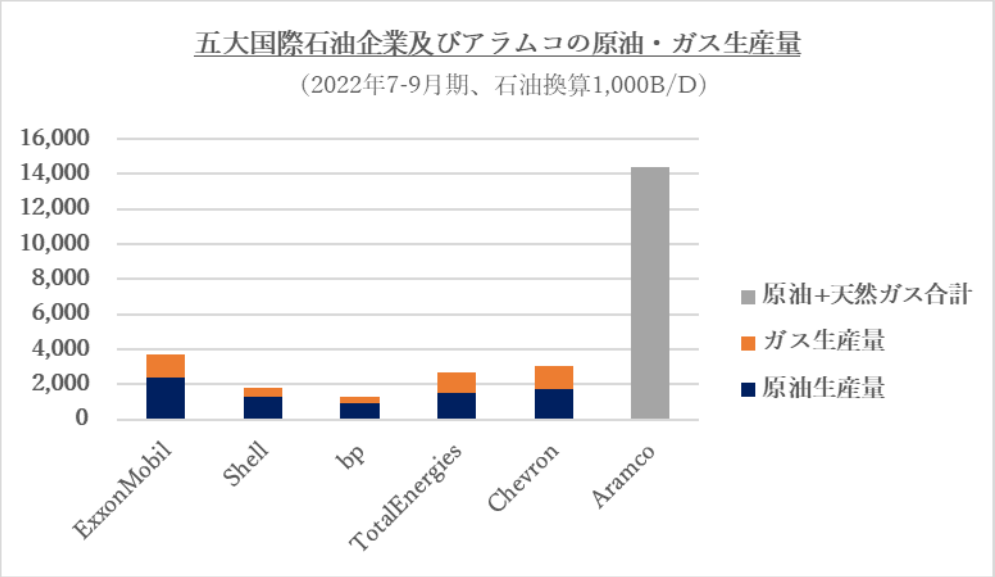
アラムコの今期投資額は 90 億ドルでありIOCs5 社の 1.6 乃至 3 倍である。また前年同期比では 2 割増加しているが、前期比では若干減少している。



（原油・天然ガス共に ExxonMobil がトップ！）

6. 石油及び天然ガス生産量

(注)アラムコの決算資料では原油.天然ガスの個別生産量を明示されておらず、同社 Interim Report で合計生産量が開示されている。



(1)原油生産量[10]

IOCs5 社の中で 2021 年 7-9 月期の原油生産量が最も多かったのは ExxonMobil の 2,398 千 B/D であり、5 社中ただ一社 2 百万 B/D を超えている。ExxonMobil に次いで生産量が多いのは Chevron(1,707 千 B/D)で ExxonMobil の 8 割である。第3、4位は TotalEnergies(1,494 千 B/D)、Shell(1,273 千 B/D)。bp は最も少ない 959 千 B/D で5社の中で唯一 100 万 B/D を下回っている。

(2)天然ガス生産量[11]

天然ガスの生産量が最も多いのは ExxonMobil と chevron で石油に換算すると共に 1,320 千 B/D であった。3 位以下は TotalEnergies 64 億立方フィート(石油換算 1,175 千 B/D)、第 4 位 Shell 30 億立方フィート(石油換算 516 千 B/D)であり、最も少ないのはbpの 21 億立方フィート(石油換算 358

千 B/D)であった。

(アラムコ生産量は 1, 440 万 B/D、IOCs5 社合計 1,250 万B／Dを凌駕！)

(3)石油・天然ガス合計生産量[12]

IOCs5 社の中で石油と天然ガスの合計生産量が最も多いのは ExxonMobil の 3, 716 千 B/D(石油換算、以下同じ)である。2位は chevron の 3,027 千 B/D、続いてTotalEnergies(2,669 千 B/D)及び Shell(1,789 千 B/D)、5社の中で最も少ない bp は 1,317 千 B/D であった。ExxonMobil の生産量を 100 とした場合、他の 4 社は chevron 81、TotalEnergies 72、Shell 48、bp は 35 である。Shell の生産量は ExxonMobil の2分の1、bpは3分の1となる。

これら 5 社に対しアラムコの生産量は 1,440 万 B/D であり、IOCs5 社の合計生産量(1, 252 万B／D)を大きく上回っている。この生産量はExxonMobilの 4 倍、bpの 10 倍に達している。

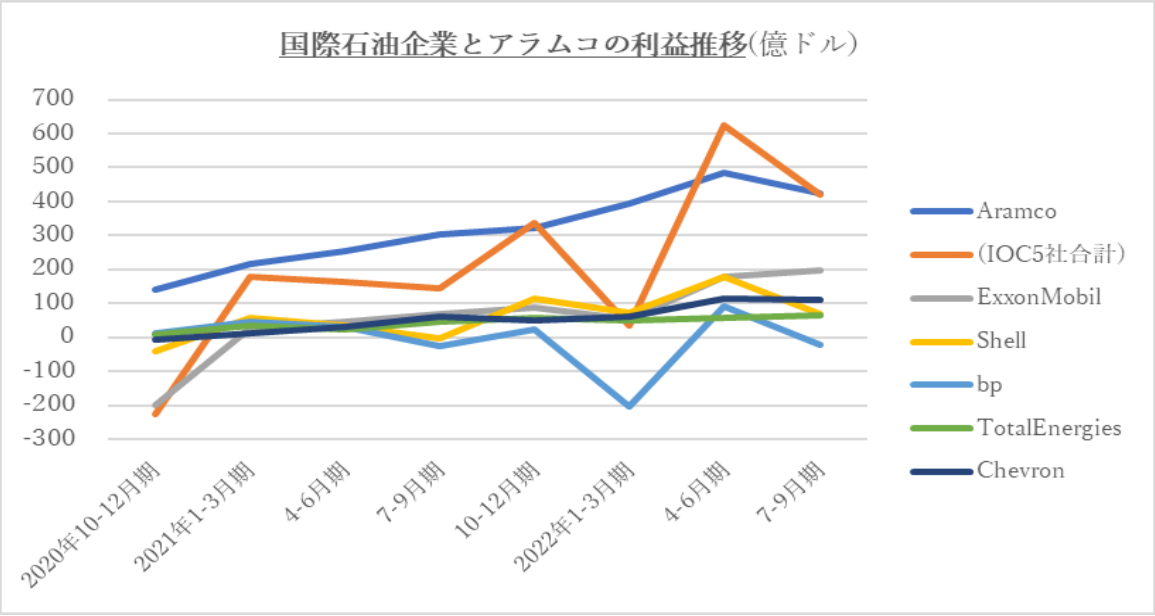
IOCs 各社の石油と天然ガスの比率を見ると、ExxonMobil は石油 65%、天然ガス 35%であり、その他の4社は Shell(石油 71%:天然ガス 29%)、bp(石油 73%:天然ガス 27%)、TotalEnergies(石油 56%:天然ガス 44%)、chevron(石油 56%:天然ガス 44%)である。5社いずれも石油の比率が天然ガスを上回っているが、石油の比率が最も高いのは bp(73%)で、逆に最も低いのは TotalEnergies 及び chevron(56%)である。

III. 過去2年間の四半期業績推移

ここでは 2020 年 10-12 月期以降 2022 年 7-9 月期までの 8 四半期の業績推移を比較する。

(過去8期累積で 2,540 億ドルの利益を稼ぎ出したアラムコ！)

1. 純利益の推移



2020 年 10-12 月期はコロナ禍の影響で IOCs5 社は ExxonMobil が巨額の損失(▲225 億ドル)を計上、Shell 及び Chevron もマイナスであり、bp(+14 億ドル)及び TotalEnergies(+9 億ドル)の利益水

準も低かった。このような中でアラムコは 140 億ドルの利益を確保している。

続く 2021 年 1-3 月期は IOCs各社の業績も回復しShellが 57 億ドルの利益を計上したほか、全社がプラス決算であった。アラムコは安定した業績で利益は前期を大きく上回る 217 億ドルに達した。

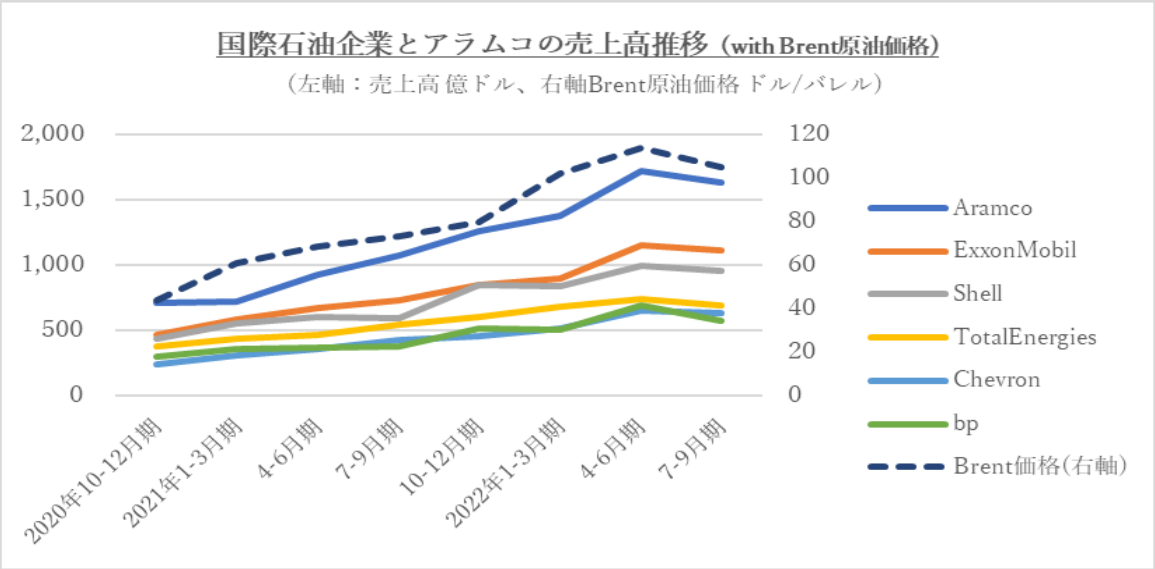
直近 8 四半期の損益状況の推移を見ると、アラムコの利益は高位安定しているのが特徴で、前期(2022 年 4-6 月期)までは毎期大幅増益であった。今期(7－9 月期)は若干減益になったものの 2021 年 1-3 月期利益の 2 倍に達している。

これに対してIOCs5 社のうち毎期安定した利益を計上したのは TotalEnergies1 社だけである。ExxonMobil 及び chevron も 2021 年 1-3 月期以降は安定しほぼ毎期増益基調である。一方 Shell は損益のブレが大きく、bpは 8 期中 3 期がマイナスであるなど安定していない。

因みに IOCs5 社の損益合計額とアラムコ 1 社の損益を比較すると、8 期間の累積損益ではアラムコは 2, 540 億ドルの利益を稼ぎ出したのに対し、IOCs5 社の累積利益はその 7 割弱の 1,680 億ドルにとどまっている。この間の四半期平均利益額はアラムコの 318 億ドルに対し IOCs5 社は 210 億ドルである。

(原油価格と見事に連動する ExxonMobil の売上高！)

2. 売上高の推移



2020 年 10-12 月期から今期(2022 年 7-9 月期)までの売上高の推移を見ると、アラムコは IOC5 社を常に大きくリードしている。同社の 2020 年 10-12 月期の売上高は 716 億ドルであったが、2021 年 7-9 月期には 1 千億ドルを突破している。その後も原油価格と連動するように毎期売上高は膨れ、前期(2022 年 4-6 月期)は過去 8 四半期では最も多い 1, 729 億ドルに達している。今期は原油価格の下落(Brent;$114→$106)で売上高は減少に転じたが、それでも 2020 年 10-12 月期の 2.3 倍に増加している。

IOC5 社の中では 2021 年 10-12 月期を除き ExxonMobil が常に売上高トップである。同社の売上高は 2020 年 10-12 月期の 465 億ドルから今期は 2.4 倍の 1, 121 億ドルに増加している。対前期比増加率は 27.1%(2021 年 1-3 月期)→14.5%(4-6 月期)→8.9%(7-9 月期)→15.2%(10-12 月期)→

6.5%(2022 年 1-3 月期)→27.8%(2022 年 4-6 月期)→▲3.1%(7-9 月期)であるが、これは Brent 原油の増減率38.4%→12.8%→6.6%→8.5%→28.2%→11.4%→▲4.7%と極めて近似しており、同社はアラムコ及び IOCs の中で最もセンシティビティが高いことがわかる。

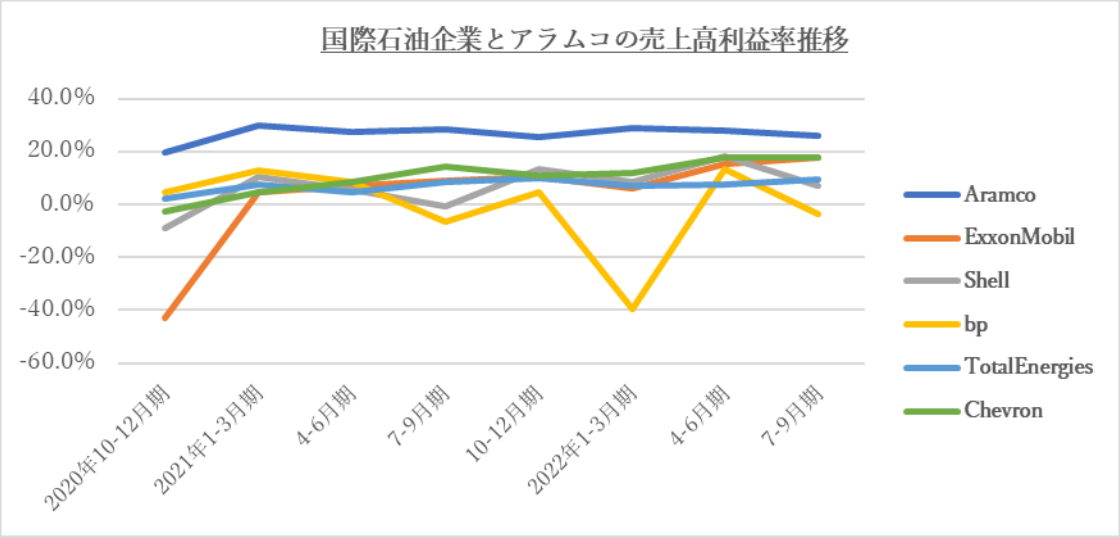
上記以外の 4 社の売上高の推移は以下のとおりである。(単位:億ドル)

	2020 年	2021 年				2022 年		
	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9
Shell	440	557	605	600	853	842	1,001	957
TotalEnergies	379	437	470	547	603	686	748	690
Chevron	248	311	361	426	459	523	654	635
Bp	302	365	376	379	522	512	695	578

TotalEnergies と Chevron も ExxonMobil とほぼ同様の傾向が見られる。一方、Shell とbpは毎期の売り上げ変動幅が大きく、原油価格以外の要素(例えば天然ガスの時価取引、ロシア合弁事業の政治的要因等)に左右されているものと思われる。

(飛び抜けた収益率のアラムコ、過去 1 年間二桁を維持する Chevron！)

3. 売上高利益率の推移



2020 年 10-12 月期から今期(2022 年 7-9 月期)までのアラムコと IOC5社の売上高利益率の推移を見ると、コロナ禍の影響が甚大であった 2020 年を脱した後、2021 年以降は多くの会社の利益率は改善されている。中でもアラムコは 2021 年 1-3 月期以降、常に 25%以上の利益率を確保しており IOC 各社の追随を許さない。

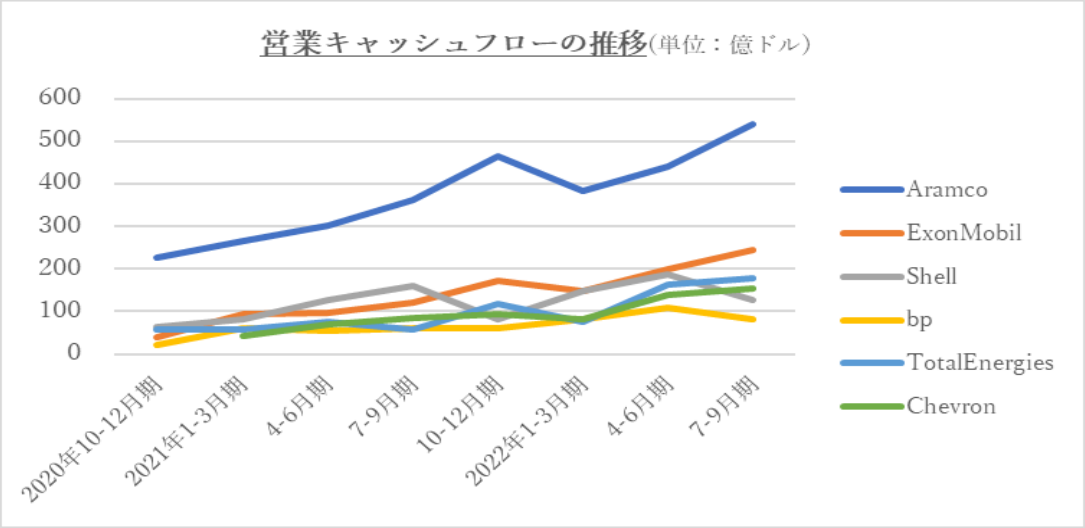
IOC5 社の中では chevron が安定しており、昨年 7-9 月期以後は 10%以上の利益率を上げている。また TotalEnergies も全 8 四半期を通じてプラスの利益率であり、これは他社に見られない特色である。売上高が最も多い ExxonMobil は 2020 年 10-12 月期こそ▲43%の大きな損失率であったものの、2021 年以降はコンスタントに 5%以上の利益率を示し、直近 2 四半期の利益率は 15%を超える好調さである。

一方 Shell は好不調の波が激しく、例えば今年になってからの売上高利益率は 8.5%→18.0%→7.0%と変動幅が大きい。bpの変動幅は Shell 以上に大きく、しかも IOC の中ではもっとも低い水準で利益と損失を繰り返している。

4. キャッシュフローの推移

(売り上げ回復とともに伸びるアラムコ、ExxonMobil の営業 C/F！)

(1)営業キャッシュフロー



2020 年 10-12 月期から今年 7-9 月期までの四半期ごとの営業キャッシュフロー(以下 C/F)の推移は概略以下の通りであった(但し chevron は 2021 年 1-3 月期以降)。

営業 C/F はほぼ売上規模に比例するため売上高が大きいアラムコが毎期 IOC 各社を大きく引き離している。即ち 2020 年 10-12 月期のアラムコ営業 C/F は 225 億ドルであり、IOC トップの Shell 63 億ドルの 4 倍近い規模である。その他の IOC ではTotalEnergies57 億ドル、ExxonMobil40 億ドル、bp23 億ドルであった(Chevron は不詳)。アラムコと bp の差は 10 倍近い。

その後、ExxonMobil、TotalEnergies 及び chevron は売上高の増加と歩調を合わせる形で営業 C/F が増大し、今期(2022 年 7-9 月期)のアラムコとこれら 3 社の営業 C/F は 2021 年 1-3 月期に比べ、それぞれ 2.0 倍、2.6 倍、3.2 倍及び 3.6 倍になっている。これに対して Shell 及びbpは 1.5 倍及び 1.4 倍の増加にとどまっている。

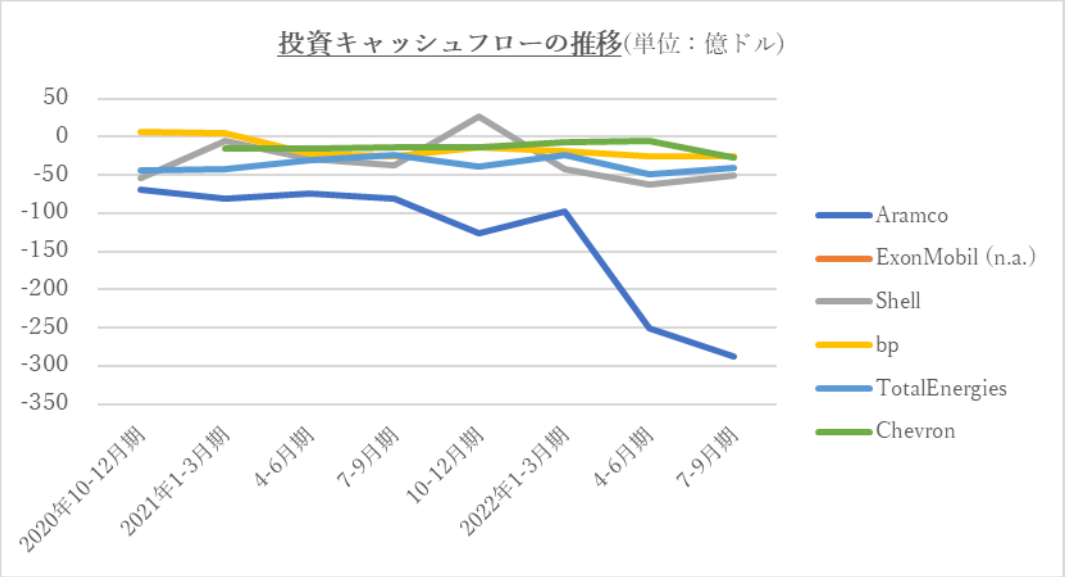
(前期、今期と急拡大したアラムコ、投資に慎重な IOCs！)

(2)投資キャッシュフロー

(注)ExxonMobil は 8 期連続した投資 C/F 不詳、chevron は 2020 年 10－12 月期不詳。)

2020 年 10－12 月期の投資C／Fはアラムコ▲69 億ドル、Shell▲54 億ドル、TotalEnergies▲45 億ドル、bp6 億ドルであった(ExxonMobil、chevron は不詳)。その後アラムコは漸増傾向をたどり、IOC は各社によって投資方針が異なり、例えば Shell は 2021 年 10－12 月期に投資 C/F がプラス 26 億ドル(即ち期中の投資回収額が新規投資額を上回る)に転じるなど、新規投資に慎重な姿勢が

見られる。

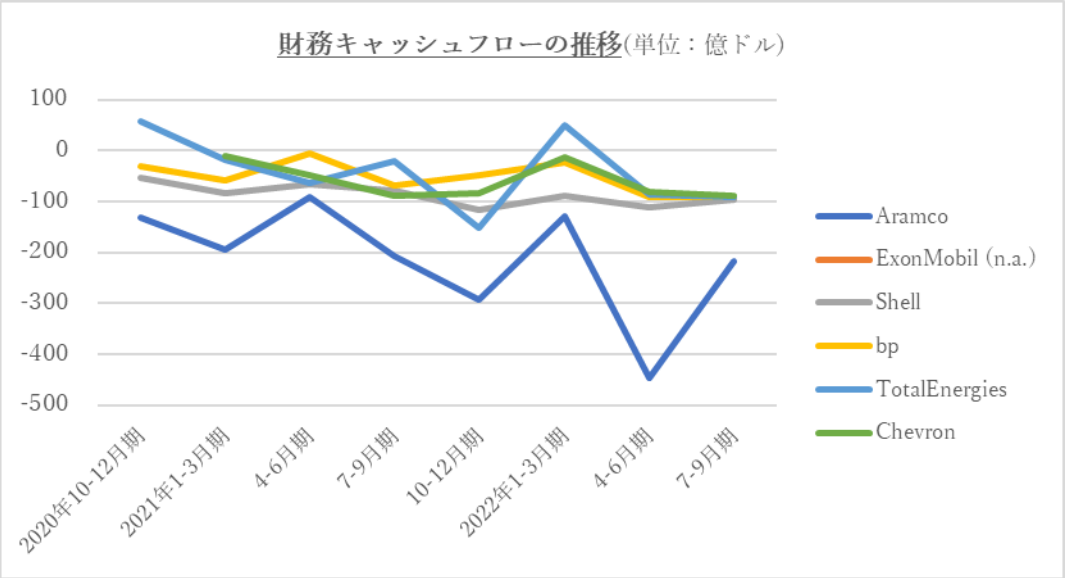


前期及び今期は IOC の投資 C/F に大きな変化は見られず、コロナ禍からの景気回復の遅れ、さらにはエネルギーの脱炭素化の動きをにらみ新規投資に逡巡している様子がうかがえる。これに対してアラムコの投資 C/F 前期▲251 億ドル、今期▲287 億ドルと高いレベルを維持し、IOC 各社とは対照的である。

(IOC の 2～4 倍に達するアラムコの財務 C/F！)

(3)財務キャッシュフロー

(注)ExxonMobil は 8 期連続の投資 C/F 不詳、chevron は 2020 年 10－12 月期及び 2021 年 1-3 月期不詳。)



ExxonMobil 及び chevron を除く 2020 年 10-12 月期財務 C/F は、アラムコが▲131 億ドルと最も多く、Shellは▲53 億ドル、bp▲31 億ドル、TotalEnergies はプラス 57 億ドル(即ち返済が新規借り入れを上回った)であった。

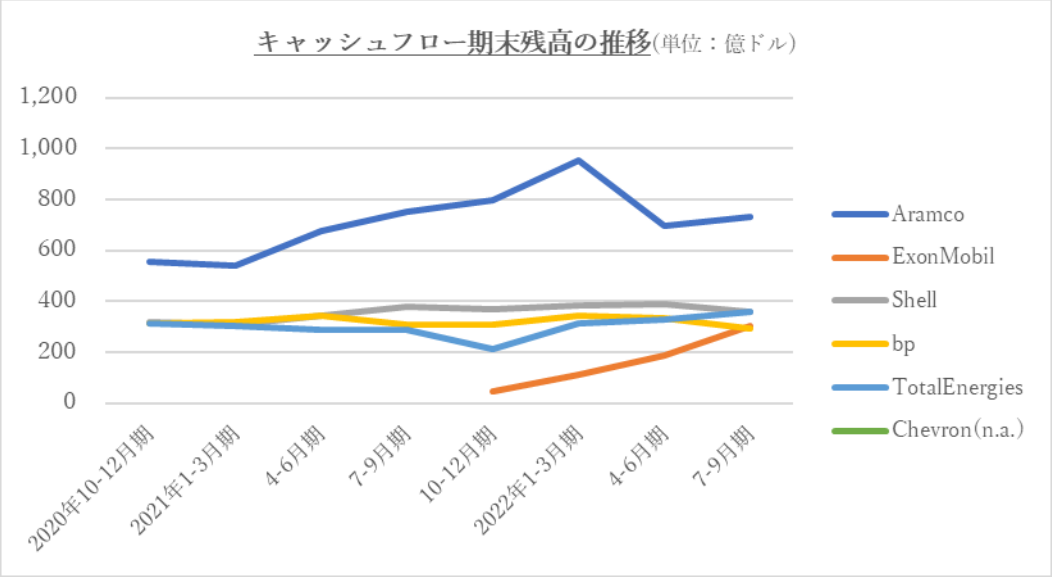
2021 年 7-9 月以降アラムコの財務 C/F は高水準が続いており、前期(2022 年 4-6 月期)は IOC

各社とは 4 倍以上の大きな格差がある。今期(7-9 月期)は Shell, bp, TotalEnergies および chevron の IOC4 社はいずれも▲90 億ドル台であり、これに対してアラムコの財務 C/F は 2 倍強の▲216 億ドルに達している。

(期末残高を積み増すアラムコ、ExxonMobil！)

(4)キャッシュフロー期末残高

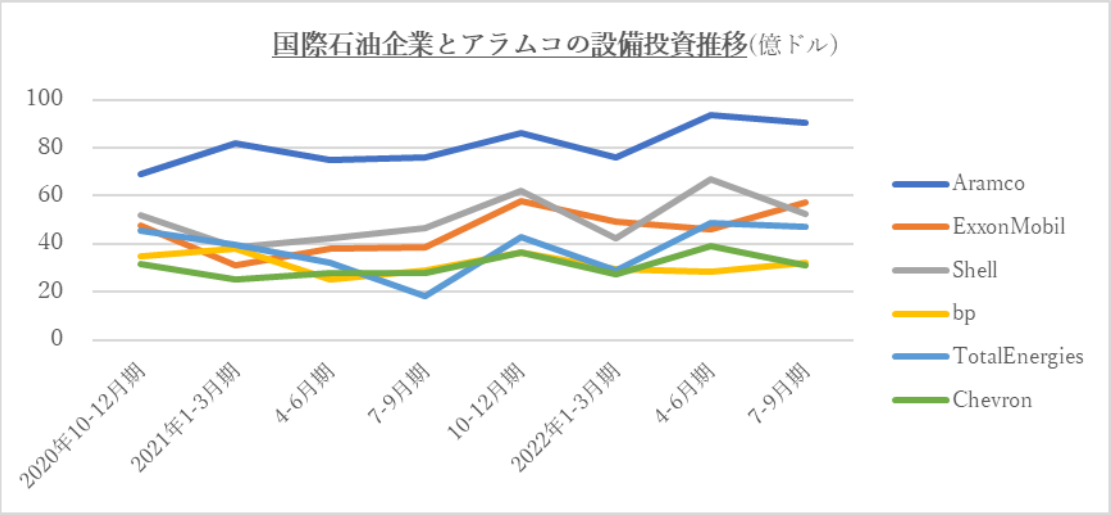
(注)chevron は全 8 期データ不詳、ExxonMobil は 2021 年 10-12 月期以降のみ。)



2020 年 12 月末の C/F 残高はアラムコが 553 億ドルであり、Shell は 318 億ドル、TotalEnergies 313 億ドル、bp 311 億ドルであった。その後これら IOC3 社の四半期末残高に大きな変化は無かった。ExxonMobil は 2020 年 12 月末の 48 億ドル以降、111 億ドル(2022 年 3 月末)→189 億ドル(同 6 月末)→305 億ドル(同 9 月末)と急激に伸びている。アラムコも 2021 年 6 月末以降残高は大きく膨らみ今年 3 月末には 954 億ドルに達した。その後減少したものの 9 月末残高は 733 億ドルで 300 億ドル前後で並ぶ IOC 各社の 2 倍以上の残高を保っている。

(常に IOC の 1.5～2 倍のアラムコ、投資に慎重な IOC 各社！)

(5). 設備投資の推移



2020 年 10-12 月のアラムコ及び IOC5社の設備投資額は、アラムコが 69 億ドルと最も多く、IOC5 社の中でトップは Shell の 52 億ドルであった。その他の IOC4 社は ExxonMobil 48 億ドル, TotalEnergies 45 億ドル、bp 35 億ドル、chevron 32 億ドルであった。

2021 年に入りコロナ禍による景気減退により各社とも設備投資額を減額或いは横ばいとしていたが 2021 年 10-12 月期は景気回復への期待及び石油価格の上昇により設備投資額は増加した。同期の設備投資額はアラムコの 86 億ドルを筆頭に、Shell 62 億ドル、ExxonMobil 58 億ドル、Totalenergies 43 億ドル、chevron 37 億ドル、bp 36 億ドルであった。

2022 年はロシアのウクライナ侵攻によるロシア合弁プロジェクトに対する先行き不安(1-3 月期)、コロナ禍終息の期待と原油価格高騰(4-6 月期)、不透明な景気見通しに対する強気と弱気の交錯(7-9 月期)により各社の設備投資額は上下に揺れ動いた。

7-9 月期の設備投資額はアラムコが 90 億ドルと最も多く、ExxonMobil はアラムコの 6 割強の 57 億ドルであった。これに次ぐのは Shell 53 億ドル、TotalEnergies 47 億ドルであり、bp及び chevron はアラムコの 3 分の 1 の 30 億ドル強にとどまっている。

設備投資は直近の自社の業績及び今後のエネルギー価格の動向、さらには長期的に見た炭化水素資源の需給見通し等により各社の判断が分かれるところである。長引くコロナ禍により世界経済が停滞し、また脱炭素・脱化石燃料の問題で石油企業に厳しい目が注がれているため各社とも設備投資に慎重な様子がうかがわれる。但し、石油・天然ガスの開発には長期間の投資が必要であり、短期的な投資抑制は近い将来のエネルギーの需給バランスに深刻な影響も懸念されるところである。今後の動向を注視したい。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行　　〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maedat@r6.dion.ne.jp

（作成：前田）

2022 年 7-9 月期国際石油企業&サウジアラムコの業績(売上、損益)

		ExxonMobil	Shell	bp	TotalEnergies	Chevron	Aramco
売上高(百万ドル)	今期(7-9 月)	112,070	95,749	57,809	69,037	63,508	163,716
	前期(4-6 月)	115,681	100,059	69,506	74,774	65,372	172,900
	増減(%)	-3.1%	-4.3%	-16.8%	-7.7%	-2.9%	-5.3%
	前年同期(7-9 月)	73,786	60,044	37,867	54,729	42,552	108,102
	増減(%)	51.9%	59.5%	52.7%	26.1%	49.2%	51.4%
総合損益(百万ドル)	今期(7-9 月)	19,660	6,743	▲ 2,163	6,626	11,231	42,430
	前期(4-6 月)	17,850	18,040	9,257	5,692	11,622	48,439
	増減(%)	10.1%	-62.6%	-123.4%	16.4%	-3.4%	-12.4%
	前年同期(7-9 月)	6,750	▲ 447	▲ 2,544	4,645	6,111	30,425
	増減(%)	191.3%	-1608.5%	-15.0%	42.6%	83.8%	39.5%
売上高利益率(%)	今期(7-9 月)	17.5%	7.0%	-3.7%	9.6%	17.7%	25.9%
	前期(4-6 月)	15.4%	18.0%	13.3%	7.6%	17.8%	28.0%
	前年同期(7-9 月)	9.1%	-0.7%	-6.7%	8.5%	14.4%	28.1%

(参考)原油価格(ドル/バレル	Brent 原油	WTI 原油
今期(7-9 月)	105.51	100.84
前期(4-6 月)	113.93	108.77
増減(%)	-7.4%	-7.3%
前年同期(7-9 月)	73.51	70.54
増減(%)	43.5%	43.0%

（作成：前田）

2022 年 7-9 月期国際石油企業＆アラムコの業績（キャッシュフロー、設備投資）

		ExxonMobil	Shell	bp	TotalEnergies	Chevron	Aramco
営業キャッシュフロー	今期(7-9 月)	24,425	12,539	8,288	17,848	15,300	54,003
	前期(4-6 月)	19,963	18,655	10,863	16,284	13,800	43,972
	増減	4,462	▲ 6,116	▲ 2,575	1,564	1,500	10,031
投資キャッシュフロー	今期(7-9 月)	n.a.	▲ 5,049	▲ 2,573	▲ 4,075	▲ 2,800	▲ 28,699
	前期(4-6 月)	▲ 3,062	▲ 6,207	▲ 2,509	▲ 4,982	▲ 500	▲ 25,089
	増減	n.a.	1,158	▲ 64	907	▲ 2,300	▲ 3,610
フリーキャッシュフロー	今期(7-9 月)	22,047	7,490	n.a.	n.a.	12,300	44,965
	前期(4-6 月)	16,899	12,448	n.a.	n.a.	10,600	34,614
	増減	5,148	▲ 4,958	n.a.	n.a.	1,700	10,351
財務キャッシュフロー	今期(7-9 月)	5,997	▲ 9,707	▲ 9,197	▲ 9,114	▲ 9,000	▲ 21,641
	前期(4-6 月)	▲ 8,671	▲ 11,150	▲ 9,246	▲ 8,571	▲ 8,100	▲ 44,722
	増減	14,668	1,443	49	▲ 543	▲ 900	23,081
キャッシュフロー期末残高	今期(7-9 月)	30,464	35,978	29,304	35,941	n.a.	73,256
	前期(4-6 月)	18,861	38,970	33,108	32,848	n.a.	69,593
	増減	11,603	▲ 2,992	▲ 3,804	3,093	n.a.	3,663
設備投資	今期(7-9 月)	5,728	5,268	3,194	4,703	3,093	9,038
	前期(4-6 月)	4,609	6,677	2,838	4,895	3,923	9,358
	増減(%)	24.3%	-21.1%	12.5%	-3.9%	-21.2%	-3.4%
	前年同期(7-9 月)	3,851	4,648	2,903	1,855	2,770	7,591
	増減(%)	48.7%	13.3%	10.0%	153.5%	11.7%	19.1%

単位：百万ドル

2022 年 4-6 月期国際石油企業&アラムコの業績（原油・天然ガス生産量）

		ExxonMobil	Shell	bp	TotalEnergies	Chevron	Aramco
原油生産量（1,000B/D）	今期(7-9 月)	2,398	1,273	959	1,494	1,707	n.a.
	前期(4-6 月)	2,298	1,325	935	1,483	1,687	n.a.
	増減	4.4%	-3.9%	2.6%	0.7%	1.2%	n.a.
ガス生産量(100 万 cfd)	今期(7-9 月)	7,963	2,995	2,075	6,367	7,920	n.a.
	前期(4-6 月)	8,606	3,428	1,964	6,835	7,253	n.a.
	増減	-7.5%	-12.6%	5.7%	-6.8%	9.2%	n.a.
同石油換算（1,000B/D）	今期(7-9 月)	1,318	516	358	1,175	1,320	n.a.
	前期(4-6 月)	1,434	592	339	1,255	1,209	n.a.
	増減	-8.1%	-12.8%	5.6%	-6.4%	9.2%	n.a.
原油・ガス合計生産量（石油換算 1,000B/D）	今期(7-9 月)	3,716	1,789	1,317	2,669	3,027	14,400
	前期(4-6 月)	3,732	1,917	1,274	2,738	2,896	n.a.
	増減	-0.4%	-6.7%	3.4%	-2.5%	4.5%	n.a.

[1] 「純利益」は各社資料から下記項目を抽出した。
ExxonMobil:Net income attributable to ExxonMobil (U.S. GAAP)
Shell:Incom/loss attributabel to shareholders
bp:Profit (loss) for the period; Attributable to BP shareholders
TotalEnergies:Netincome (TotalEnergies share)
Chevron:Net income
SaudiAramco: Net income by consolidated financial statement (end year) / q1,q2&q3 interim report

[2] 「売上高」は各社資料から下記項目を抽出した。
ExxonMobil:Total revenues and other income
Shell:Revenue
bp:Total revenue and other income
TotalEnergies:Sales
Chevron:Sales and other operating revenues
SaudiAramco: Revenue and other income related to sales, consolidated financial statement of income, interim

[3] キャッシュ・フロー（cash flow、現金流量）とは、現金の流れを意味し、主に、企業活動や財務活動によって実際に得られた収入から、外部への支出を差し引いて手元に残る資金の流れのことをいう。欧米では古くからキャッシュ・フロー会計にもとづくキャッシュ・フロー計算書（Cash flow statement, C/F）の作成が企業に義務付けられており、日本でも 1999 年度から上場企業は財務諸表の一つとしてキャッシュ・フロー計算書を作成することが法律上義務付けられている。

キャッシュ・フローは（1）営業キャッシュ・フロー(日常的な、生産・営業活動によって稼得する現金と、それに要する現金コストの収支)、(2)投資キャッシュ・フロー(工場新設やビル建設・トラック購入

などの設備投資・有価証券投資に要する現金支払いと資産売却による収入)及び(3)財務キャッシュ・フロー(財務活動による現金の収支)の3種類があり、これらの総合収支が会計期間内の現金収支であり、期首(前期末)の現金(及び現金相当物)の残高に期間内の収支を加えたものが当期末の現金(及び現金相当物)となる。(Wikipedia より)

[4] 「営業キャッシュ・フロー」は各社資料から下記項目を抽出した。
ExxonMobil:Cash Flow form Operating Activities (U.S. GAAP) / Net cash provided by operating activities (U.S. GAAP)
Shell:Cash flow from operating activities
bp:Net cash provided by operating activities, Condensed group cash flow statement
TotalEnergies:Cash flow from operating activities, TotalEnergies financial statements
Chevron:Net cash provided by Operating Activities, Summerrized Statement of Cash Flow (Preliminary)
SaudiAramco: Net cash provided by operating activity, Condensed consolidated statement of cash flow

[5] 「投資キャッシュ・フロー」は各社資料から下記項目を抽出した。
Shell:Cash flow from investing activities
bp:Net cash used in investing activities
TotalEnergies:Cash flow used in investing activities, TotalEnergie financial statement
Chevron:Net cash Used for Investing Activities, Summerrized Statement of Cash Flow (Preliminary)
SaudiAramco: Net cash (used in) provided by investing activities, condensed consolidated statement of cash

[6] 「フリーキャッシュフロー」は ExxonMobil、Shell 及び Chevron3 社は各社資料から抽出、bp 及び TotalEnergies2 社は営業 C/F と投資 C/F の差額とした。
ExxonMobil:Free cash flow
Shell:Free cash flow
Chevron:Free cash flow, Summerrized Statement of Cash Flow (Preliminary)
SaudiAramco:Free cash flow

[7] 「財務キャッシュ・フロー」は各社資料から下記項目を抽出した。
Shell:Cash flow from financing activities
bp:Net cash provided by (used in) financing activities
TotalEnergies:Cash flow from (used in) financing activities, Total financial statement
Chevron:Net cash provided by (Used for) Financing Activities, Summerrized Statement of Cash Flow (Preliminary)
SaudiAramco: Net cash used infinancing activities, condensed consolidated statement of cash flows

[8] 「キャッシュフロー期末残高」は各社資料から下記項目を抽出した。なお Chevron は資料に明記されていない。
ExxonMobil:Cash and cash equivalent at end of period
Shell:Cash and cash equivalent at end of period
bp:Cash and cash equivalent at the end of the period
TotalEnergies:Cash and cash equivalent at end of period, TotalEnergies financial statement
SaudiAramco: Cash and cash equivalents at the end of the period, Condensed consolidated statement of cash flows

[9] 「設備投資」は各社資料から下記項目を抽出した。
ExxonMobil:Capital and Exploration Expenditures
Shell:Capital expenditure, Consolidated Statement of Cash Flow
bp:Capital expenditure
TotalEnergies:12. Net investments
Chevron:Capital & Exploratory Expenditure, Worldwide
SaudiAramco: Capital Expenditure, Financial results,

[10] 「原油生産量」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:Net production of crude oil, natural gas liquid, bitumen and tsynthetic oil
Shell:Liquid production available for sale
bp:Production (net of royalties), Liquids
TotalEnergies: 3.3 Production, Liquids
Chevron:Net liquid production
[11]「天然ガス生産量」は各社資料から下記項目を抽出した。
ExxonMobil:Natural gas production available for sale
Shell:Natural gas production available for sale
bp:Production (net of royalities), Natural gas
TotalEnergies:Hydrocarbon production, Gas
Chevron:Net natural gas production, Worldwide
[12]「石油・天然ガス合計生産量」は各社資料から下記項目を抽出した。
ExxonMobil: Production, Earnings and Volume Summary
Shell:Total production in barrels of oil equivalent
bp:Production (net of royalities), Total hydrocarbons
TotalEnergies: 3.3 Production
Chevron:Total net oil-eqivalent production
SaudiAramco: Interim Report, Highlights, Upstream